

来年度予算は2年連続で経常赤字の予算となります！

キッコーマン健保組合について(2月22日開催)

2月22日に開催された健保組合会で、平成30年度予算と事業計画などが承認されました。

1) 健康保険料(一般保険料)および介護保険料の料率は前年を維持

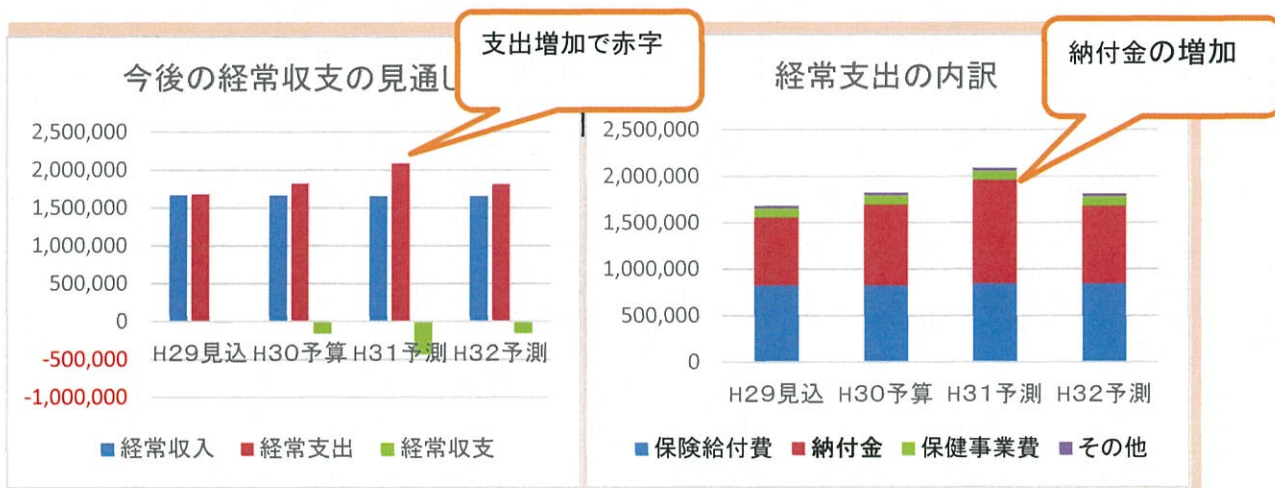
健康保険料率(一般保険料率):8.4%(うち、被保険者負担2.7%)
介護保険料率:1.4%(うち、被保険者負担0.7%)

2) 平成30年度一般収支予算総額は21億6540万円

経常収支は**1億5837万円の赤字予算**です。(H29年度は約1千万円経常赤字見込)
経常赤字が拡大する主な要因は、国内の高齢者医療費を支えるための納付金が1億3700万程度増額されるためです。
平成30年度の赤字分は、前年度の繰越金で賄うことになります。

3) 今後も経常収支の赤字が続く見通し

1年後の平成31年度はさらに納付金が2億5千万円程度増える見込であるため、医療費が増えなかったとしても、経常収支は4億円以上の赤字となると思われます。その後も恒常的に1億5千万円程度の経常赤字が続く予測であるため、料率改定も含めた収支改善策の検討を今後の理事会等で討議していく予定です。
(注)納付金は当健保加入の65歳～74歳の方の医療費等の多寡で大きく変動します。



4) 平成30年度事業計画は、生活習慣病対策に重点をおいて実施

①「第2期データヘルス計画」に合致した保健事業の実施

厚生労働省より、H30年度から6年間の「データヘルス計画」の立案提出が求められています。これは、健診結果や医療情報を分析し、導きだされた課題について、事業主と協力し保健事業をPDCAを回しながら効果的に実施するというもの。特に、生活習慣病対策として実施する「特定健診」「特定保健指導」の実施率を上げることは必須とされています。

<当健保の課題>

●2016医療費分析

- <全体>65歳以上の加入者の医療費が全国平均より高い
- <社員>消化器系の疾患が比較的多いが、循環器系疾患やガンは平均よりも低い。
- <40歳以上の家族>医療費が平均よりも高く、特に循環器系の重症疾患の医療費が高い。

- 特定健診結果分析 <全体> 電子データの収集率が低いため、分析が不十分
<男性社員> 生活習慣病のハイリスク者の割合が平均より高い。

<当健保のH35年までの目標>

- <全体> 特定健診受診率90%、特定保健指導率55%を目指す。
- <40歳以上の家族> 「被扶養者健診制度」や「人間ドック」の広報によって特定健診受診率75%の達成を目指す。
その結果、生活習慣病の早期治療を進め、循環器系の重症疾患医療費を全国平均並みに下げたい。
- <男性社員> 「治療受診該当者への受診勧奨」、「生活習慣病リスク者への特定保健指導」、「エクササイズキャンペーン」などによって、生活習慣病リスク者を減らし、「治療受診勧奨該当者率」を全国平均並みに下げたい。

②従来の保健事業を継続

- 健康経営に向けた取り組み(事業主に協力)
- 特定健診データ、医療費データの収集・分析など、従来の事業は継続する。

③その他(運用変更)

アースインターナショナル社に委託している契約保養所の利用について、一部運用を変更することとした。

<変更点> 補助対象者の範囲

「被保険者と配偶者の一親等まで」⇒「被保険者および被扶養者」に限定
ただし、経過措置として、経過措置期間中は「被保険者に扶養されていない配偶者」も補助対象に加える。経過措置は平成30年度に適用し、さらに1年延長するかどうかは財政状況等を見て決定することとなった。

<理由>

財政が経常赤字であることを鑑み、「保健事業は、被保険者およびその被扶養者の健康の保持増進を図ること」という厚労省の事業運営基準の考え方に沿った運用に変更する。

5)介護保険料予算について

H30年度は収入よりも支出が600万円上回ります。

収支予算総額は2億569万5千円で、支出超過分を前年度繰越金で賄います。

健保組合の財政が苦しくなっています。
生活習慣の改善や早期治療を心がけていただき、
医療費などの健保支出の抑制にご協力をお願いします！

以上